

ごあいさつ

毘沙ノ鼻万葉歌碑建立委員会

会長 永尾 遼

「長門なる沖つ借島」の万葉歌碑が、蓋井島を目前にする、本州最西端の毘沙ノ鼻展望広場に完成し、ご来賓の方々、関係者並びに多くの方が参列され、平成12年7月16日、落成除幕式を挙行いたしました。

出来上がった万葉歌碑は、「沖つ借島」の歌を揮毫した主碑と、この万葉歌を理解するために必要な事項を盛った副碑とに分かれています。両碑の調和もよく、また響灘の大海原、御崎地区の山林の緑ともよくマッチし、雅味豊かなものとなりました。

今後、この歌碑が、当地の文化遺産として末長く伝えられ、本州最西端の毘沙ノ鼻の地ともども、観光の面からも注目され、地域振興の役割をも果たして欲しいと願っております。

建碑に関する諸般については、当地区の自治会が中心となり、さらに当地区で活躍の方々にも推進のをお願いし、皆様方のご賛同と多大なご援助とを得て、完成にこぎつけました。これらの諸々のご協力に対し、厚くお礼申し上げます。

・歌碑所在地 山口県下関市吉母町御崎 「毘沙ノ鼻」展望広場

JR山陰本線「吉見駅」より、西北7キロ（タクシーあり）。

サンデン交通バス、「吉母港」行終点より、徒歩4キロ。

◎「毘沙ノ鼻」は本州最西端の地

北緯34度6分27秒 東経130度51分45秒

・建立年月日 平成12年7月16日

・建立者 毘沙ノ鼻万葉歌碑建立委員会（吉見・吉母・蓋井島各自治会）

・建立協力者 小川 登（主碑・揮毫者） 安成 義夫（石材提供者）

横山 幸彦（石材運送者） 濱崎 辰己（施工業者）

福本 上（郷土史家） 佐々木 具慶（万葉歌碑研究者）

長門なる 沖つ借島 奥まへて

吾が思ふ君は 千歳にもがも

（万葉集巻六一1024）

この歌は、天平10年（738）8月20日、時の右大臣 橘 諸兄の家で宴が開かれた時、長門守巨曾倍対馬朝臣がその席に出席して詠んだものです。（長門の国にある、沖つ借島の名のように、心の奥に深く思っているあなた様は、千年も長生きしてほしいものです）と、自分の任国の地名を巧みに使い、長寿を願った歌です。

これに対し、橘諸兄が返しの歌として

奥まへて われを思へる わが背子は 千年五百歳 ありこせぬかも（巻六-1025）

（心の奥深く、私を思ってくれているあなた様こそ、五百年も千年も、長生きして欲しいものです）と詠んでいます。

この「沖つ借島」については、戦前、既に幾つかの説が出されていますが、信頼すべき説はなく、多く所在不明とされてきました。ところが、戦後、郷土史の研究が進むにつれ、江戸時代中期から明治時代初期にかけて書かれた、次の諸書、即ち『八幡宮本紀』（1689）『豊府志略』『防長地下上申』『長門一の宮住吉神社史料』などに、吉母西方6キロの海上に浮かぶ「蓋井島」を、天平の昔の「沖つ借島」とする伝承の記載があることが判明してきました。

これらの史料を調査・整理し、諸書に発表してきたのは、室田浩然（吉見地区在住）・山形吉蔵（故人）・福本上（吉見地区在住）の諸氏でした。それは、昭和30年前後以降のことで、爾来、万葉研究家の中においても、「蓋井島説」として漸次認められ、今日に至っています。今回の建碑も、上記の伝承を根拠としたものです。

千年を遥かに越える長い年月の間、蓋井島と、それをとりまく自然の姿が、今もほとんど変わらないまま残っていることは、われわれの先祖が残してくれた貴重な遺産といえるでしょう。

今回、吉見・吉母・蓋井島の各自治会が中心となり、郷土のいにしえを知り、この自然を後世に伝える拠点として、本州最西端毘沙ノ鼻の台地に、万葉歌碑が建立されました。地元の自然石を使い、地元の方が揮毫し、歌碑周辺の整備も地元の方々の協力によって完成しました。今後、訪れる多くの人々に、この歌碑が、いつまでも愛され、親しまれることを心から祈念致します。